

一人一人が主体的に学び切れる授業の創造～リラーニングを通して～

東広島市立磯松中学校

全生徒数	473名 (男子254名 女子219名)
全クラス数	15クラス(特別支援級2クラス)
TEL	(082) 428-6675

1 課題と目的

課題は、3つある。1つ目に、生徒の技能や知識の「二極化」が進んでいる感覚が年々増してきており、できない生徒や苦手な生徒への手だてを考える必要性があると感じていたこと。2つ目に、生徒が授業をただ受けるだけでなく、自分と向き合い、個々の課題の改善に向けて本気で取り組む時間を確保したいと感じていたこと。3つ目に、教師が生徒のことをよく観てしっかりと状況を把握する時間を確保したいということである。

これらの課題から、生徒それぞれが自分の課題と本気で向き合い思う存分、学び直しができる時間（リラーニングの時間）を作ることで、生徒の主体的な学びを引き出すことを目的とする。

2 主な取組の内容（器械運動：マット）

- ① リラーニングの設定
全11時間の単元の中の5時間目と9時間目にリラーニングの時間を設定し、生徒が自由に学びなおしできる時間を作った。
- ② ワークシートの活用
ただ自由に学び直しをするわけではなく、ワークシートを使い事前に「課題」等を明確にさせることで意欲の向上を図った。（リラーニングの前時）
- ③ 同じ課題を持った生徒でペアを作る
事前ワークシートをもとに意図的にペアを組んだ。
- ④ 先生は全体を見渡し、ヒントを与える。
周りをよく見て、学びのためのヒントを与える。
- ⑤ 様々な場の設定をする
傾斜マット、跳び箱ゾーン、遅延装置、タブレッ

ト、練習方法の掲示など生徒のニーズに応じた様々な場の設定を行った。

3 取組で工夫したところ

リラーニングの時間は基本的には生徒が自由に学習する。この時間に向けて意欲を高め、課題を明確にすることができる「事前のワークシート」は、大変効果があった。生徒は自己の課題を事前に認識しているし、目標設定もできているので、時間を持て余すこともなく、それぞれが主体的に取り組んでいた。また、意図的なペア学習は、個々の課題を共有し、対話や助け合いをすることで、深い学びにつながっていた。そして、場の設定の中でも、特にタブレット利用と練習方法の掲示が効果的であった。

4 成果と今後の課題

成果は大きく3つある。1つ目に生徒が課題を発見し、解決に向け「主体的に学ぶ姿」が観られたことである。2つ目に、事前と事後のアンケートの比較から、生徒の運動に対する「劣等感」の低下と、「体育満足度」の向上がみられた。3つ目に、生徒はこの時間を使って生徒をじっくり観察する余裕がうまれ、的確な評価ができることができ、アドバイスしたり、今後の指導の方向性を決めたりすることができることがわかった。

課題としては、様々な場面で、様々な課題に向かってたくさんの生徒が取り組むため、安全面の確保に少し課題が残った。普段の授業から安全に対する意識をしっかりと植え付けておくことがとても大切である。

このリラーニングの取り組みは、今回行った器械運動の単元だけでなく、他の単元でも実施可能であり、さらに、他教科でも活用できる概念であると考えられる。



跳び箱ゾーン、傾斜マットゾーン



タブレットを使った交流の様子



遅延装置を見て交流している様子